て、患者り、心がってそうた気務付沿岸いまい状境省あるでもし、

水俣病解決に向けて具体的な対策を迅速にやってほしい。水俣病被害拡大の責任がある熊本県の木村知事からも、環境省へ働きかけてほしい。

毎年5月1日に行われる犠牲者慰霊式では、美辞麗句のあいさつは不要である。

環境大臣には公害知る人を

長谷川　博70
＝カフェオーナー
（熊本市）

水俣病公式確認から68年となった5月1日。犠牲者慰霊式の後に行われた環境大臣と水俣病被害者との懇談会での混乱に、本当にびっくりしてしまいました。

環境行政のトップに立つ人に水俣の苦しみを聞いてもらえる懇談会と思ったら、途中でマイクを切られてしまう。それが複数回にわたって行われました。

熊本県人としてあきれ、怒りました。世界に発信されるニュースでも異常事態とされ、アメリカの知人もフェイスブックに怒りを投稿していました。

水俣病は、チッソが有機水銀を含む廃液を海に流して起きた、大きな環境破壊を伴う公害事件です。声を上げることなく亡くなった水銀汚染の被害者も多くおられます。

水俣病問題の解決に向けた要である環境大臣という役職は、仕方なく回ってきた椅子だったのでしょうか。環境問題の原点といわれる水俣での環境省の態度は、なんということかと世界から見られるでしょう。

環境行政を変えるために、環境大臣は国会議員ではなく、実態をよく分かった民間人、特に公害患者さんの代表から選ぶべきではないでしょうか。そうすれば日本は環境面で世界をリードし、良い結果を残すのではないでしょうか。

© Kumamotonichinichi shimbun All Rights Reserved.